

黛 丈夫 議員



問 持続可能な町行財政運営にあたり、現状をどのように捉えているのか

答 財政の硬直化が進んで劇的な改善が難しい状況になってきている

町長の施政方針で、財政健全化、事業の見直し、受益者負担のあり方等、行政改革プランを策定し、効率・効果的運営に努めるとしているが。

問 行政改革プラン・中期財政見直しの進捗状況と公表は。

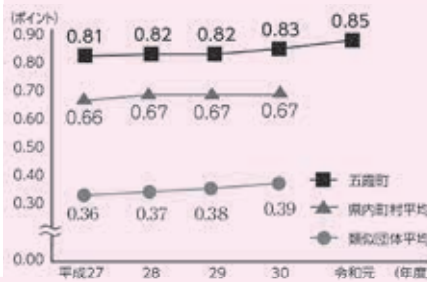
まちづくり戦略課長 平成17年、22年と1次、2次行政改革運営プランを策定し、組織機構改革、職員数、事務事業の見直し等を実施してきました。現在、その検証と社会情勢に応じた新たな行政改革運営プランの策定準備を進めています。なお、プラン策定後、広報紙等により周知したいと考えています。

問 地方公共団体財政健全化指標で経常収支比率がかなり高い値を示すが。

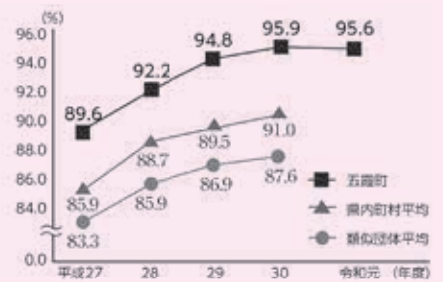
総務課長 県内類似町村の中でも高い水準にあります。事業の取捨選択による歳出削減、人件費を含む経常経費削減、支出の平準化等を行うとともに、受益者負担の適正化等を図りながら歳出抑制に努めたいと思います。

●五霞町の近年収支状況

財政力指数（3か年平均）
「高いほど町が自力で調達できるお金が多い」



経常収支比率(100%⇒財政が完全に硬直化)
「高いほど自由に使えるお金が少ない」



- 経常収支比率 = (人件費や扶助費、公債費等毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源) ÷ (地方税や普通交付税を中心に毎年度経常的に収入される一般財源、減収補填債特例分及び臨時財政対策債の合計額) × 100 (%)
- 「財政判断指標」等は、広報ごか令和2年10月号を参照してください。

問 先行取得した道の駅ごかの後背地は、今後の道の駅にどのように組み入れていくのか

答 現在策定している道の駅のあり方基本構想の中で土地活用について具体的に示したい

道の駅は、新4号国道高架、隣接地企業施設建設、近隣道の駅との競合、農産物生産者の高齢化と後継等、内外変化に関わる諸問題を抱え、また、更なる存在感が求められる重要な分岐点にあると思うが。

問 取得した土地の運用方法は。問題点とその対策は。

産業課長 第一に町の特徴・課題を踏まえた再整備の推進、第二に町のニーズに応える民間活用の導入、第三に観光と防災を備えた拠点とする三つの視点から、基本構想を本年度末までに策定したい

と考えています。国道と圏央道が交差する好条件を活かし、まちづくりの核として道の駅のステップアップに後背地土地活用を組み入れます。また、農産物の品薄、出荷量等内的問題は道の駅の構成組織で課題を検討し、具体的対策と仕組みづくりを図っていきます。

『道の駅ごか』後背地の概要

- 住所；五霞町ごかみらい10番地2
- 地目；宅地
- 地積；7,243.41平方メートル
- 取得金額；2億8,000万円